

報道機関各位

熊本大学

## 八千代座に甦るサイレント映画たちの上映について

9月1日（土）11：00－18：30にかけ、熊本大学教育学部と早稲田大学演劇博物館、山鹿市地域振興公社の三者主催により、国指定重要文化財・八千代座（熊本県山鹿市）にてサイレント映画祭を行うことになりましたので、以下ご案内させていただきます。

内容は、熊本出身の徳富蘆花『不如帰』（1922）、それから、大正から昭和初期に山鹿で上映されていたことが確認されているチャップリン（『チャップリンの放浪者』1916）や、名作『忠次旅日記』（1927）を、国際的に活躍している弁士の片岡一郎氏、山内奈々子氏、三味線の湯浅ジョウイチ氏らを招聘しての生演奏付、豪華3本立ての上映を行うものです。

上映に際しては、早稲田大学演劇博物館の協力により、映画伴奏楽譜コレクション<ヒラノ・コレクション>、および、同博物館最大の映画ポスターコレクション<鶴田コレクション>（熊本と山鹿の大正、昭和初期の映画ポスター900点から構成）を使用させて頂くことができ、それらコレクションを研究されている早稲田大学演劇博物館の柴田康太郎さんを中心として、以下の演劇・映画研究者によるシンポジウムも開催できる運びとなりました。

（第2部：13：30-15：00 司会：山田高誌・熊本大学）

- ・柴田康太郎（早稲田大学）「サイレント時代の日本の映画音楽」
- ・上田学（神戸学院大学）「映画興行における九州・熊本」
- ・神田由築（お茶の水女子大学教授）「八千代座の源流～玉名・山鹿の芝居」
- ・児玉竜一（早稲田大学演劇博物館副館長）『忠次旅日記』と新国劇と九州興行

世論を作り、社会提言を行うマスメディアとしての役割がオペラから映画へと移行する時代にあつて、演劇や映画の興行としての流れがどのような形で“中央”から“地方”へもたらされていたのか、実際に大正から昭和初期に映画上映を行っていた八千代座において、当時の上映スタイル（丸一日かけての上映、飲食自由）を踏襲しながら考えようという趣向です。

なお、地元商店街のご協力もあり、中庭には屋台が並び、劇場内も当日は特別に飲食自由でありますとともに、文部科学省科学研究費補助事業としてすべての参加は無料、予約も不要です。

以下、リンク転載は自由ですのでどうぞよろしく願いいたします。

早稲田大学演劇博物館：[http://www.waseda.jp/pr/j-kyodo-enpaku/enhancement/H30\\_yachiyozu.html](http://www.waseda.jp/pr/j-kyodo-enpaku/enhancement/H30_yachiyozu.html)

八千代座：[https://yamaga.site/?page\\_id=2](https://yamaga.site/?page_id=2)

広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方、よろしく願いいたします。

## 【イベントのお問い合わせ先】

熊本大学教育学部音楽科 山田 高誌（准教授）

TEL：096-342-2681

E-mail：[yamada@educ.kumamoto-u.ac.jp](mailto:yamada@educ.kumamoto-u.ac.jp)



サイレント映画鑑賞会とシンポジウム

よみがえ

# 八千代座に甦る サイレント映画たち

入場無料・予約不要

上映作品

『不如帰』

池田義臣監督/松竹/1922

『チャップリンの放浪者』

チャールズ・チャップリン監督/1916

『忠次旅日記』

伊藤大輔監督/日活/1927

弁士の語りと和洋合奏の生演奏つき

2018年9月1日(土) 11:00~18:30

熊本県山鹿市八千代座

主催：熊本大学教育学部、早稲田大学演劇博物館、演劇映像学連携研究拠点、  
一般財団法人山鹿市地域振興公社

後援：熊本大学、熊本県教育委員会、山鹿市教育委員会

協賛：千代の園酒造(株)

協力：KONJIKI PROJECT、亀寿し、熊本市電気館、湯宿津、国立映画アーカイブ



明治末に芝居小屋として誕生した八千代座では、さまざまな芝居の上演とともに、映画の上映も行われていました。大正～昭和期にはサイレント映画も上映され、たくさんの観客を楽しませていたようです。この催しでは、世界各国で活躍している弁士の片岡一郎さんや日本のサイレント映画伴奏の第一人者である湯浅ジョウイチさんらを招き、現代の八千代座にふたたびサイレント映画の傑作群を甦らせます。

第1部では熊本出身の徳富蘆花の原作による『不如帰』、サイレント時代を代表する喜劇役者チャップリンの出世作『チャップリンの放浪者』、そして第3部では日本のサイレント映画の最高傑作のひとつ『忠次旅日記』を上映します。第2部では、こうした映画をとりまいていた九州での芝居や映画の歴史をめぐってシンポジウムを開催します。映画上映会とシンポジウムを通して、八千代座の劇場風景に思いを馳せてみませんか。



Photo by 野中元

## プログラム 司会：山田高誌(熊本大学)

### ● 第1部 11:00-12:30 トーク&映画上映1

「弁士で見るチャップリン！」

トーク「八千代座と映画の歴史」：木村理郎(山鹿市文化協会会長)

映画上映『不如帰』(25分)

弁士：片岡一郎 演奏：湯浅ジョウイチ(ギター)ほか

トーク「徳富蘆花について」：中村青史(熊本大学元教授)

映画上映『チャップリンの放浪者』(26分)

弁士：山内菜々子 演奏：湯浅ジョウイチ(ギター)ほか

### ● 第2部 13:30-15:00 シンポジウム

「大正時代の映画と演劇の劇場風景」

サイレント時代の日本の映画音楽：柴田康太郎(早稲田大学)

映画興行における九州・熊本：上田学(神戸学院大学)

八千代座の源流～玉名・山鹿の芝居：神田由築(お茶の水女子大学)

『忠次旅日記』と新国劇と九州巡業：児玉竜一(早稲田大学)

### ● 第3部 15:15-17:15 映画上映2

「八千代座に甦る日本のサイレント映画の最高傑作！」

『忠次旅日記』(111分)

弁士：片岡一郎

演奏：湯浅ジョウイチ(指揮者、三味線)、古橋ゆき(ヴァイオリン)、  
今上千鶴、秋山奈菜(フルート)、森みゆき(ピアノ)

### ● 第4部 17:30-18:30 ディスカッション(60分)

## 問い合わせ先

熊本大学 教育学部 音楽科(山崎浩隆)  
096-342-2684 yamasaki@educ.kumamoto-u.ac.jp

## アクセス

福岡・佐賀・長崎・大分方面より  
JR新幹線新玉名駅下車 山鹿行産交バス利用30分  
熊本市・鹿児島・宮崎方面より  
JR新幹線新玉名駅下車 山鹿行産交バス利用30分

## 上映作品



『不如帰』 ※マツダ映画社所蔵作品  
池田義臣監督/松竹/1922

明治期の熊本出身の文豪・徳富蘆花の代表作で、サイレント期だけでも20回近く映画化された家庭悲劇の一作。日本映画最初のスター女優ともいわれる栗島すみ子の主演作。



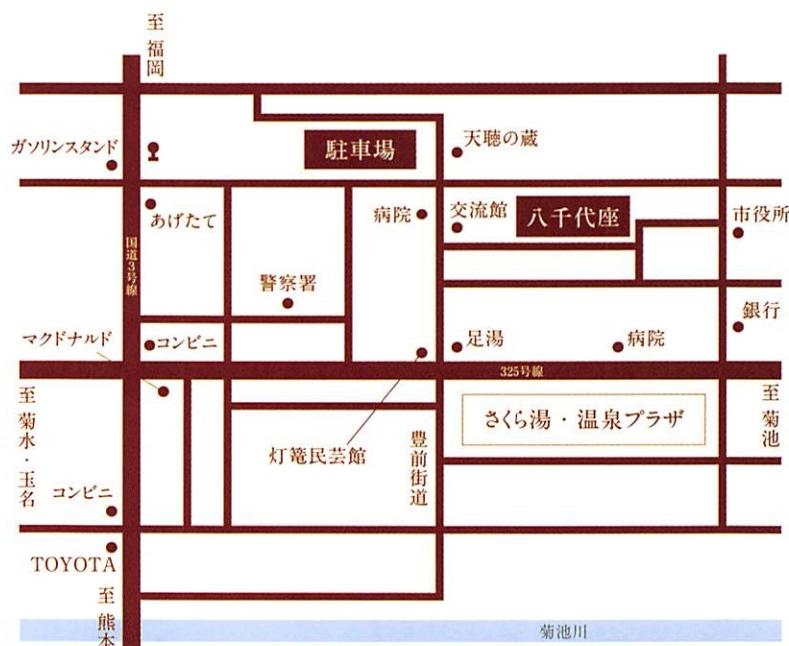
『チャップリンの放浪者 The Vagabond』  
チャールズ・チャップリン監督/1916

酒場をクビになったヴァイオリニストのチャーリーは旅先で出会った貧しいジプシーの娘に淡い恋心を抱く。チャップリンの初期のなかでもドラマ性の高い作品で、ドタバタ喜劇を交えつつ、チャーリーの淡い恋心が描かれる。



『忠次旅日記』 ※国立映画アーカイブ所蔵作品  
伊藤大輔監督/日活/1927

1991年にフィルムが発掘された日本のサイレント映画の最高傑作の一本。サイレント期を代表する伊藤大輔の演出により、名優大河内傳次郎が国定忠次を演じる。



\*この催しは、2016-2018年度の科学研究費助成事業(基盤研究(B))  
「熊本県山鹿市の歌舞伎(式)劇場・八千代座に関する総合的史料研究」の成果公開の一部です。